

# PRESS RELEASE

報道関係者各位

平成25年7月29日  
第4回防災コンテスト事務局

## 地域の防災活動に役に立つ「防災コンテスト」を開催

～防災マップづくりと防災ラジオドラマづくりを通じて災害に強い協働型地域をつくる～

### 1. 概要

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、地域の防災力を高めるための取り組みとして、地域のさまざまなコミュニティが協働して防災活動に取り組んでいただくことを目的に、「第4回防災コンテスト」を6月1日より開催しております。

- ・応募締切：平成25年11月30日
- ・表彰シンポジウム：平成26年2月22日
- ・主催：独立行政法人防災科学技術研究所
- ・後援：内閣府、文部科学省、つくば市、つくば市教育委員会、守谷市教育委員会
- ・協賛：NTT空間情報株式会社

### 2. 参加資格

本コンテストでは、弊所が開発した「e コミュニティ・プラットフォーム」<sup>別添資料1</sup>を活用し、防災活動を共に取り組む仲間や災害時に協力し合う仲間と絆をつくりながら「e 防災マップ」及び「防災ラジオドラマ」を作っていただきます。

● e 防災マップ：地域の防災に役に立つ情報を地図に表したものです。

- ・最優秀賞1点、優秀賞5点

例 過去の地域の災害履歴や経験に関するマップ ・平時の防災活動や防災訓練に関するマップ  
災害時の安全な避難や対応に関するマップ ・要援護者等の災害対応に関するマップ 等

#### 事例. 茨城県つくば市千現地域

子どもたちの夏休みの自由課題として、ご近所同士の家族と自治会長が集まって、地域オリジナルの防災マップをつくりました。当地域では、防災物資が備蓄されていないことを課題に取り上げ、地域内の事業所や商店等に「災害時にどのような協力ができるのか？」というアンケートを実施し、その結果を地図に表して防災マップをつくりました。

2011年3月11日、東日本大震災の発生直後、当地域では、断水や停電が発生している中、最寄りの避難所に集まった大勢の帰宅困難者や地域住民に対し、防災マップづくりに協力した地域内の事業者や商店から物資や人手の支援を受けることができました。



① e 防災マップで地域の災害を調べる。



② みんなでまちを歩いて確認する。



③ e 防災マップで防災マップをつくる。



④ 防災マップ学校や地域にプレゼントする。

# PRESS RELEASE

- 防災ラジオドラマ:災害時に起こりうる事態や対策のアイデアを物語形式に整理したものです。  
・最優秀賞 1 点、優秀賞各 5 点 (脚本部門、ドラマ部門)

例 災害経験や史実からの教訓に関するドラマ ・地域防災上の課題や対策に関するドラマ  
災害時の地域被害と具体的な対応に関するドラマ ・防災意識啓発に関するドラマ 等

## 事例. 茨城県つくば市立吾妻小学校

学校の防災活動の一環として、地域に共働き世帯が多いことから、災害の発生直後に子どもの安否確認や引き渡しが困難に陥ることを課題に取り上げ、子どもたちと先生、PTA が集まって話し合った結果をシナリオ化し、学校オリジナルの防災ラジオドラマをつくりました。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災の発生直後、当学校では、つくば駅の最寄りの公設避難所であることから、600 名を超える帰宅困難者や地域住民が集まった中、作った防災ラジオドラマのシナリオに沿って、先生と PTA、地域住民が協力しながら児童の的確な引き渡しや避難者への対応を行うことができました。



①子どもの安全な避難方法について議論する。



②e 防災マップで安全な避難場所を確認する。



③安全な避難についてシナリオをつくる。



④声優になって防災ラジオドラマを収録する。

### 3. 参加資格

地域の防災活動に取り組みたいと考えているグループはどなたでも参加できます。

例 近隣の知人や友人などの仲間が集まったグループ  
中学生・高校生・大学生・各種専門学校などの、学生グループ  
福祉や障がい者支援団体、まちづくり団体、シルバークラブなど、様々な地域支援グループ  
自治会、消防団、自主防災組織、避難所運営組織など、自主防災グループ  
イベント実行委員会、地域コミュニティ FM 局、NPO、地域の一般企業 等

### 4. 審査・評価

防災に係わる学識経験者で構成される審査委員会にて、以下の視点で評価します。

- 地域の災害特性や防災対策の現状、地域課題について調査し理解していること。
- 地域の様々な関係者と協力しながらつくっていること。
- 作品を活用し、地域の様々な関係者とコミュニケーションを図っていること。
- 地域防災上の新たな課題や改善につながるアイディアが含まれていること。
- 地域防災上の現状を見直し、新たな防災の取り組みにつながる提案となっていること。
- 作品として優れたもので、メッセージが伝わること。

### 5. 詳細・問い合わせ

- 防災コンテストウェブサイト：<https://bosai-contest.jp>

- 防災コンテスト事務局

〒312-0005 茨城県ひたちなか市新光町 38 ひたちなかテクセンター A-302

(株式会社エフ・ディー・シー内、担当：新村・高橋)

電話：029-264-2287、F A X：029-264-2979、メール：[emap@bosai-contest.jp](mailto:emap@bosai-contest.jp)

\*第 4 回防災コンテスト事務局は、独立行政法人 防災科学技術研究所より委託を受け、株式会社エフ・ディー・シーが運営しております。

# PRESS RELEASE

## 別紙資料 1

### e コミュニティ・プラットフォーム

「e コミュニティ・プラットフォーム (e コミ)」(<http://ecpm-plat.jp>) は、防災科学技術研究所が開発した、地域コミュニティによる情報発信、情報共有等のコミュニケーションを支援するためのウェブアプリケーションです。2009 年よりオープンソースによる無償公開を行っています。HTML の知識がなくても web ページが作成できる CMS 「e コミグループウェア」と、地図作成ツール 「e コミマップ」で構成されます。特に e コミマップは、オープンデータとして公開された地理情報を下敷きに、地域住民自らが地図作や印刷出力ができる参加型 Web マッピングシステムです。



図 e コミマップ作成の例 (第2回防災コンテスト最優秀賞受賞グループのマップ)

### ●東日本大震災における e コミの活用

e コミは、これまで全国各地において、実証実験等で活用されてきましたが、特に東日本大震災では、岩手県釜石市や大槌町、陸前高田市などの被災自治体をはじめ、宮城県及び同県下の複数自治体の災害ボランティアセンターの運営に活用されました (<http://msv3151.c-bosai.jp>)。宮城県内の災害 VC では、e コミを利用した災害 VC 同士や様々な災害支援団体との災害情報共有をはじめ、災害 VC 運営状況やボランティア募集状況などの地域外への情報発信、さらに、e コミマップを利用したボランティアニーズの集約やボランティア活動状況の管理などを行っています。



<e コミグループウェア>

<e コミマップ>

図 宮城県内の災害ボランティアセンターでの e コミ利活用

# PRESS RELEASE

別紙資料 2

## 「防災コンテスト」 資料お申込書

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( )

発信元	<p>団体名 _____</p> <p>ご担当者様名 _____</p> <p>TEL : _____</p> <p>FAX : _____</p> <p>e-mail : _____</p> <p>(日中ご連絡のつく連絡手段を○で囲んでください)</p>				
必要部数	<table><tr><td>チラシ</td><td>ポスター</td></tr><tr><td>_____ 枚</td><td>_____ 枚</td></tr></table>	チラシ	ポスター	_____ 枚	_____ 枚
チラシ	ポスター				
_____ 枚	_____ 枚				
送信先	<p>防災コンテスト事務局      担当：新村純</p> <p>TEL : 029(264)2287      FAX : 029(264)2979</p> <p>HP : <a href="http://bosai-contest.jp">http://bosai-contest.jp</a>      e-mail : <a href="mailto:emap@bosai-contest.jp">emap@bosai-contest.jp</a></p>				

■希望部数を記入の上、メールまたはFAXにてご返信ください。